

学童保育の会 50 周年記念に寄せて

日本共産党 石島陽子

学童保育の会 50 周年、おめでとうございます。

23 年前、私は約 17 年働いた学童保育の指導員を退職して市議会議員になり、市政の立場で新座の学童保育の問題を考え、皆さんの声を市政に届けることになりました。あらためて指導員時代を振り返ると、楽しかったことばかり思い出します。

学童保育をつくりたいという保護者の運動が実り、市内で 9 番目の共同運営の学童保育所「こぶしハウス」が開所した時に、私は指導員として働き始めました。子どもたちにより良い保育環境をつくりたい、指導員の労働条件を良くしたい、という保護者の方の思いやエネルギーに支えられ、社会人 1 年生の私は色々と教えてもらいました。運営委員会や父母会で、子どもたちの成長を話し合い、キャンプやバザーなどの行事を一緒につくる中で、指導員と保護者、保護者同士が楽しく共感し合える時代だったと思います。また、指導員会での研修、全国連協や県連協主催の学習交流会では、保育のヒントをもらい、優れた実践に刺激を受けることができました。

コロナ禍で、保育などのケア労働が社会に欠かすことのできないエッセンシャルワーカーとして、広く認識されるようになりました。けれども、ケア労働を大切にしない今の政治のもとで、学童保育施策は前に進んだかと思えば、予算のかからない方へ押し戻されそうになったり、ジグザグし続けています。その時その時の学童保育の会のみなさんが、声をあげ続けきたことが今につながり、これからも子どもたちの育つ環境をつくっていきます。時の流れによって保育の会の運営の形は変わっていったとしても、保育の会の灯りをともし続けていただきたい。保育の会OBの私の思いです。